

第12回日中韓3か国地方政府交流シンポジウムの開催について

(財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

はじめに

2010年8月30日(月)から8月31日(火)の2日間、中国や韓国と歴史的にも文化的にも交流の深い九州の長崎県において、「第12回日中韓3か国地方政府交流シンポジウム」を長崎県との共催により開催しました。

この会議は、日本、中国、韓国の3か国の地方政府間の国際交流・協力をより一層促進することを目的に、自治体国際化協会、中国国際友好城市連合会、韓国全国市道知事協議会の3機関が輪番制により、首長レベルのシンポジウムとして1999年より毎年開催しているもので、今年で第12回目(日本開催は4回目)の開催となりました。

当会議は、①首長レベルの参加者が多く、トップレベルの意見交換・交流が可能、②日本、中国、韓国の多数の団体が参加するため幅広い意見交換・交流が可能、③観光客誘致といった自治体PRの場としても有効であることなどから、毎回各国から多くの自治体関係者が出席しています。

特に、今回の会議は、過去最多の参加者を数え、中国からは58団体155名、韓国からは10団体38名、日本からは35団体113名の地方政府機関および地方行政関係機関からの参加を得て盛大に開催されました。

テーマ

文化交流・経済交流が親密な日中韓3か国が、国家の枠を越えて地方自治体としてより確固たる協力を取り合うことを目的に、「地域間協力の推進による北東アジア地域の発展」をメインテーマとして掲げ、「地域経済の発展に向けた取組」「環境保全と地域間協力の取組」「文化を生かした地域振興と文化交

流の取組」をサブテーマとして、日本、中国、韓国それぞれの代表による積極的な講演、事例発表が行われました。

開会式・歓迎レセプション

8月30日には開会式が行われ、また、長崎県主催の歓迎レセプションが行われました。レセプションでは、地元長崎県の郷土料理「卓袱料理^{しっぽく}」をベースにした食事と「長崎ぶらぶら節」等の伝統民謡で中国、韓国からの来訪者を歓迎しました。

全体会議・事例発表

1. 全体会議

8月31日の午前の全体会議は、最初に山梨県立大学国際政策学部の吉田均准教授による基調講演から始まりました。東アジアの地域間協力は、「双方向の利益を前提とした国際的な共生」の段階にあるとし、相互利益をもたらす協力関係について具体的事例を挙げながら発表が行われました。今後、相互利益をもたらす協力の分野として観光と環境の分野などが有望であり、また、国際的な多地域間協力を行うことが有効であるとの報告があり、協力関係の構築に取り組もうとする3か国の地方政府関係者に多くの示唆を与えるものとなりました。

基調講演に引き続き、3か国の代表者による主旨講演、吉田均准教授をコーディネーターに主旨講演者によるパネルディスカッションが行われました。

まず、日本代表の中村法道・長崎県知事の講演では、長崎県と中国・韓国との



開会式・各国代表による鏡割



全体会議風景

交流の歴史、近年の交流の取組や、アジアを中心に海外の活力を長崎県に取り込み、経済を活性化させるアジア・国際戦略を

推進しており、その一環として「クルーズ客船受入拡大プロジェクト」や「孫文・梅屋庄吉と長崎プロジェクト」などを進めていることが紹介されました。

次に、中国代表の楊樹平・三門峽市長の講演では、①具体的な協力を力を入れ共同利益を最大化すること、②友好都市間に相互に通じるコミュニケーション・協調の長期的なメカニズムを構築すること、③環境保護技術分野での協力を強化することの3つが提唱されました。

また、韓国代表の裴泳吉・釜山広域市副市長の講演では、北東アジアにおける実質的な中心都市を目指して国際交流の取組を進めていることが報告され、北東アジアの利益を最大化するために北東アジア地域協力を政治、経済、社会、文化の多様性を認める「一つの共同体」として構築することを目標とすべきとの提案が行われました。

パネルディスカッションでは、効果的な協力の事例や今後どのような分野での協力が有効かについて、意見交換が行われ、将来に向けての3か国の地域間協力の在り方について理解が深まりました。

2. 事例発表

午後からの事例発表では、午前の全体会議の主題である3か国の地域間協力の現状と今後の進むべき在り方の全体的なテーマをより具体的に理解するため、3か国地方政府相互の共通課題を3つのサブテーマに分けて、それぞれのテーマに沿って4つのセッションが設けられ、3か国のさらなる発展を目指した各国の地方政府代表による議論が行われました。また、会場からも積極的な発言があり活発なセッションとなりました。

●セッション1（文化）

セッション1では、「文化を生かした地域振興と文化交流の取組」をテーマに実例発表および議論が行われました。

中野五郎・臼杵市長は「臼杵市と敦煌市新たな交流ステージ」を題目に、仏教文化が取り持つ縁で始まった中国・敦煌市との交流が、農業面での協力などに発展してきていることや日中友好の石碑を設けた心の小径を設置していることなどの事例を交え、歴史文化に基づいての交流についての有効性を発表しました。中国の王生林・石嘴山市副市長は、さまざまな形式の日中韓青少年交流・協力活動を積極的に展開することにより、日中韓の友好の新しいページを開くべきとの発表を行いました。韓国の光州広域市からは、裴美耕・光州ユニバーシアード広報企画チーム長から、2015年に同市で開催される世界的なスポーツ大会「ユニバーシアード」誘致の取組と、この開催を生かした都市マーケティング戦略について発表がありました。

●セッション2および3（地域経済の発展に向けた取組）

セッション2および3では、「地域経済の発展に向けた取組」をテーマに発表および議論が行われました。

まず、セッション2では、韓国の韓俊洙・全州市企画調整局長より、伝統文化資産を活用した韓スタイル都市を目指し「全州韓屋村」を観光施設として成功させたことや「デザイン創造都市」として景観形成に取り組んでいることなどの取組について発表がありました。日本の智多正信・長崎市副市長は、福州市との友好都市交流において、水産分野での技術交流などを進め経済交流に発展させていることや、地域の物産を中国や韓国に輸出していることなどの事例を発表し、「環黄海経済圏」において、観光客の往来、農水産物等の輸出入、技術交流など地域間協力の重要性について発表しました。

セッション3では、日本の末竹健志・佐世保市副市長は、観光交流や経済・学術交流など積極的な国際交流を行っていることや、国際観光を活性化するため観光プロモーションの推進や観光客受け入れ態勢の整備を図っていること、国際的人材の育成・活用などの取組について事例を発表しました。中国の毛志雄・成都市長助理は、持続可能な発展のために、エネルギーの効率化や社会保障、公共サービスの充実などにより、経済構造の最適化に努めていること

などについて発表しました。

●セッション4（環境）

セッション4では、「環境保全と地域間協力の取組」をテーマに発表および議論が行われました。中国の慶陽市の高静楽副市長は、中国でも有数の資源保有都市の同市のさらなる長期的な発展には、環境の問題は避けることはできず、産業のグリーン化や生態系対策に力を入れたエコ化を進めていることを報告しました。韓国の山清郡の金東煥・企画監査室長は、親環境産業を育成し環境保全を行っていることや漢方薬草産業の育成を行っていることなどの発表を行いました。日本の久鍋和徳・北九州市環境局相談役は、環境国際協力の重要性と北九州市の取組、特に国の「環境モデル都市」に選定され、低炭素社会づくりをけん引してきた取組やアジア低炭素センターを設置し、環境面でアジアの諸都市と北九州市との間でWIN-WINの関係を構築することを目指していることについて発表しました。

閉会式・レセプション

会議終了後、閉会式が行われ、当協会の木村陽子理事長、中国人民対外友好協会の陳昊蘇会長、韓国全国市道知事協議会の金泰謙事務総長の挨拶に続き、韓国全羅北道の金完柱知事により次回開催地プレゼンテーションが行われ、今後も日中韓の3か国での地方政府レベルでの会話の場を引き続き持とうとの認識が改めて確認されました。

閉会式後のレセプションでは、地元の女子高校生により、長崎伝統芸能である「龍踊り」が披露されました。会場内では大分県臼杵市特産のカボスのPRとして「ウスキボウル」（井に麦焼酎、氷、カボスのスライスを入れて取り分けるパーティ用飲物）コーナーも設置され好評を得ました。

また、長崎県内の大学に留学する中国人や韓国人の学生を中心とした通訳ボランティアの協力により、



視察コース：土石流被災家屋保全公園

日中韓3か国の地方政府関係者の意見交換など盛んな交流が行われました。

視 察

2日間にわたるシンポジウム終了後には、希望参加者向けに長崎県内視察ツアーが設定され、長崎市内の原爆資料館などの平和関連施設や歴史文化施設、島原・雲仙エリアの雲仙岳の災害関連施設、ジオパークによる観光振興などの視察が実施されました。

まとめ

北東アジア地域は、世界の中で経済的地位が向上しており、日本・中国・韓国の経済的なつながりは一層強くなってきています。こうした状況の中で、3か国の地域間交流も単なる相互理解や友好の段階から、相互利益をもたらす協力の関係となるよう、その関係を深化させていかなければなりません。今回、さまざまな発表を通じ、地域間で新たな協力関係を構築するための切り口が共有できたのではないかと思います。

今後も、こうした地方政府レベルでの会議開催を通じ、3か国地方政府間の相互理解と協力関係がより一層深められ、北東アジア地域の発展のために地方政府が重要な役割を果たしていくことを期待しています。

次回開催について

次回、2011年の日中韓3か国地方政府交流会議は、韓国・全羅北道で8月に開催される予定で準備を進めており、すでに日中韓3か国語対応の専用WEBサイトを立ち上げています。次回シンポジウムに関する情報は随時、当協会のホームページ上に掲載をしていく予定です。

日中韓3か国の地域間交流と協力を深める絶好の機会であるこの会議への積極的な参加を期待しています。

第12回日中韓3か国地方政府交流 シンポジウムを終えて

長崎県知事公室国際課

去る8月30日(月)から31日(火)にかけて、第12回日中韓3か国地方政府交流シンポジウムが長崎市内のホテルで開催されました。また、翌日の9月1日(水)から2日(木)にかけては、長崎県の主催による県内視察(日帰りコースと1泊コース)に御参加いただき、長崎平和公園やハウステンボス、雲仙温泉などを巡り長崎県の歴史や魅力に触れていただきました。

期間中は、日本、中国、韓国の自治体・地方政府から多くの方々に御参加いただき、このシンポジウムや視察等を通して、長崎県の取組や魅力について広くPRするができ、長崎県にとっても大変有意義なものとなりました。

*

長崎県は日本本土の最も西に位置しており、地理的に大陸と近接していることから、古くから中国や韓国との関係が深く、盛んに交流が行われてきました。長崎市内には、新地中華街や孔子廟、唐寺などの建造物や街並みの中に中国の色合いが残っているほか、料理やイベントの中にも中国との縁を感じさせるものが数多く残っています。また、本県対馬市と韓国釜山市との距離はわずか49.5kmであり、江戸時代には、対馬藩が朝鮮王朝との外交を任せ、朝鮮王朝からの外交使節団・朝鮮通信使が日本を訪れた際には、日本側の窓口として大きな役割を果たしました。

現在、長崎～上海間と長崎～ソウル間に定期航空路があるほか、対馬～釜山間には定期航路があるなど、中国、韓国との間の往来が盛んであり、活発な交流が行われています。

このような長崎の特性や本県におけるさま

ざまな取組を国内外の方々を知っていただくことは、交流の拡大にとって大きな要素のひとつであります。この日中韓3か国地方政府交流シンポジウムは長崎県をPRする上で大きな契機となると確信し、一昨年開催地に立候補しました。

*

実際、今回のシンポジウムを通して、3か国の地方政府・自治体関係者に、長崎県の取組を知っていただくとともに、長崎県の街を見て、人と触れ合っていたいただくことにより、長崎県の魅力をより深く知ってもらうことができたことと思います。このことは、今後の相互の友好交流、相互理解に繋がっていくものと確信しており、また、県内の自治体にとっても中国や韓国の取組を知り、両国の関係者と議論を交わすことで新たな交流への取組の契機になったと考えています。

長崎県においては、今年、知事を本部長とするアジア・国際戦略本部を設置し、アジアを中心に海外の活力を重点的に取り込み、本県の経済活性化につなげるための方策を立案・推進することとしており、今回のシンポジウムの実施を今後の施策推進のために繋げていきたいと考えております。

最後に

本シンポジウムの開催のため、中国側・韓国側の事務局として御尽力いただきました中国人民対外友好協会および韓国全国市道知事協議会の皆様に対して深く感謝申し上げますとともに、今後さらに、日本、中国、韓国相互間の友好交流が発展していくことを願っております。